

母語が外国語発音学習に与える影響

金子 湊

1.はじめに

外国語を学習する際、自分の発音が正確でないと感じたり、音節を区別することが難しいと感じたりする。この状況は一般的であり、学習の障害となる。その要素として以下の二点が挙げられる。自分の母語

自分の話し方や習慣

しかし、どちらの影響がより強いのかについては確定できない。それを確定するために、調査を行い、考察する。

2.方法

母語が日本語、英語、フランス語である人々を対象に、異なる言語において区別が顕著な R に関連する発音について二回の街頭調査を実施した。被験者に質問を行い、それぞれに対して1点から3点のスコアを付与する。4つの質問を行い、終了後にスコアを記録し、最終的に統計を行い、表にまとめる。

3.結果

スコアをカウントして得られたグラフを図1に示す。母語が英語の人の平均スコアが最も高く、フランス語、日本語を母語とする人々は得点差が大きい。

4.考察

外国語学習において母語が被験者に強く影響することが明らかになった。母語が英語の人が日本語やフランス語の発音を模倣する時、フランス語、日本語を母語とする人より簡単であり、自信感もある。

この順番が現れる理由として、フランス

母語が 外国語発音学習に影響する

母語が英語の人が、 発音勉強で、一番有利なの？

場合により、そうだ。

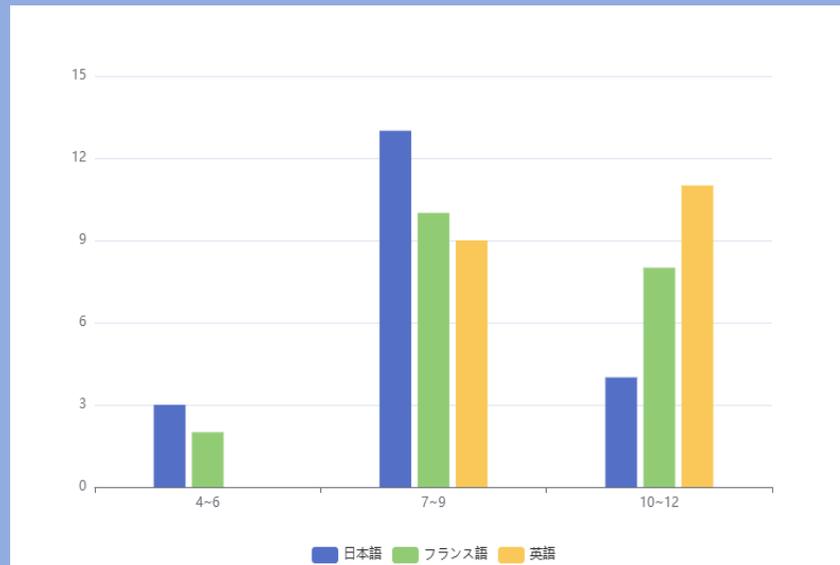


図1 得点と人数を示す図
横軸が得点範囲、縦軸が人数

語では r の発音法が特殊で、日本語では一つの音で違う音を発音しているが挙げられる[1]。さらに、高校で発音方法や発音の時舌の位置を学んだが、どうしても舌に力が入らないと、20代の男性被験者が言った。だがその原因はまだ瞭でなく、もし舌の機能が退化しているのが原因の場合、舌は発声に影響を与えるだけでなく、食べるプロセスにも影響を与えるため、同じ言語の人が同じ部位に筋肉の退化を持つ場合、それは彼らの食習慣や好みに影響を与えるはずである。また、満点の被験者から、彼らの多くが外国語学習に時間をかけて練習していることが分かった。

今回は明確な結果を得たが、英語やフランス語の被験者の大部分が観光客であり、外国文化への関心が高く、調査データの精度に影響を与える可能性がある。より正確なデータを得るために、質問数を増やし、各地でより広範囲な調査を実施する必要がある。

5.終わりに

外国語の発音を学習する際、学習者の母語はその学習の難易度に強く影響する。しかし、時間をかけて練習することで、困難を克服し、慣れてない発音上達することが可能である[2]。

参考文献

[1]Aoyama, Katsura; Flege, James Emil; Guion, Susan; Akahane-Yamada, Reiko; Yamada, Tsuneo (2004), " Perceived phonetic dissimilarity and L2 speech learning: the case of Japanese /r/ and English /l/ and /r/ ", Journal of Phonetics 32: 233-250

[2]McClelland, J.L.; Fiez, J.A.; McCandliss, B.D. (2002), "Teaching the /r/-/l/ Discrimination to Japanese Adults: Behavioral and Neural Aspects", Physiology & Behavior 77 (4-5): 657-662